

糖尿病の合併症

「糖尿病の三大合併症」

- 神経障害
- 網膜症 → 視力低下、失明
- 腎症 → 腎不全、透析

「その他合併症」

- 足病変、足壊疽
- 動脈硬化（脳梗塞、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症など）
- 感染症 など

血糖コントロールの目標

HbA1c(ヘモグロビンA1C)は過去1~2か月の血糖値の平均値を反映する指標

(1) 血糖正常化を目指す際の目標 **HbA1c 6.0%未満**

適切な食事療法や運動療法だけで達成可能な場合、または薬物療法中でも低血糖などの副作用なく達成可能な場合の目標とする。

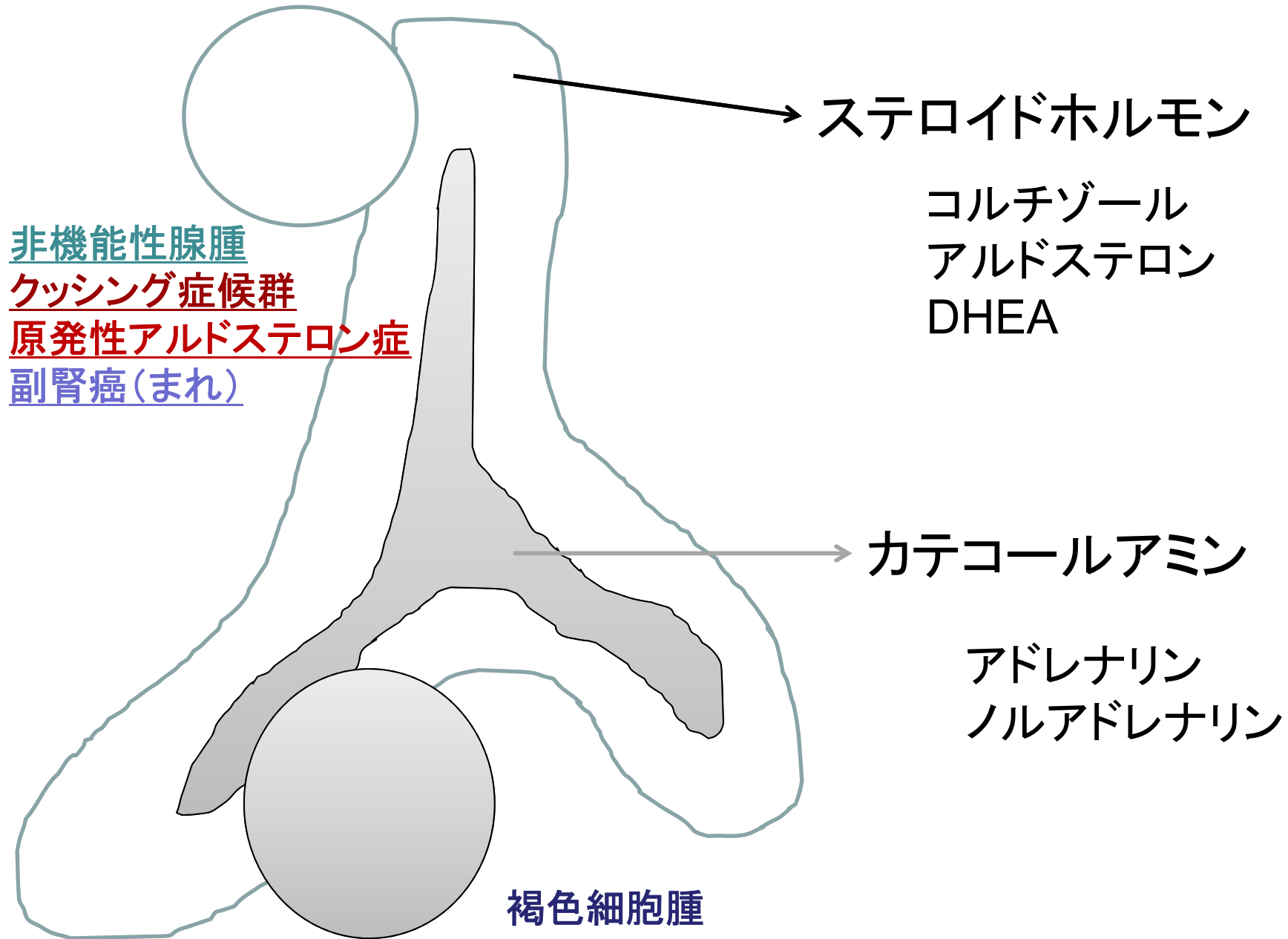
(2) 合併症予防のための目標 **HbA1c 7.0%未満**

合併症予防の観点からHbA1cの目標値を7%未満とする。対応する血糖値としては、空腹時血糖値130mg/dL未満、食後2時間血糖値180mg/dL未満をおおよその目安とする。

(3) 治療強化が困難な際の目標 **HbA1c 8.0%未満**

低血糖などの副作用、その他の理由で治療の強化が難しい場合の目標とする。

副腎のホルモンと腫瘍



副腎のホルモン

コルチゾール

体の活動性を保ちストレスへの対応を担っているホルモンであり、生命の維持に必須のホルモンです。

コルチゾールが足りないと、全身倦怠感、疲労感、低血圧、低血糖などが起こります。

しかし、多すぎた場合は、肥満、高血圧、骨粗鬆症、糖尿病、不眠などが起こる。

足りない病気→副腎不全(アジソン病など)

たくさん作られすぎる病気
→クッシング症候群(副腎・下垂の腫瘍など)

副腎のホルモン

アルドステロン

腎臓で働き、尿から塩分(Na)が漏れて行かないようにするホルモン。このホルモンの作用でNaの代わりにKが尿から排泄されます。

生物が海中から陸上へ進化する過程で摂取が困難になったNaを体内に保持するのに重要な役割をはたしていたと考えられています。

足りないと塩分が足りなくなり血圧が低くなります。
多すぎると、高血圧と、カリウム不足になります。

たくさん作られすぎる病気

→原発性アルドステロン症(副腎の異常)

副腎のホルモン

カテコールアミン(アドレナリン・ノルアドレナリン)

闘争などの急激な身体活動を必要とする際に分泌されるホルモンです。

- ・心臓を強く速く動かす→**高血圧、頻脈、頭痛**
- ・肝臓や脂肪のエネルギーを燃やす→**高血糖、痩せ**
- ・胃や腸の活動を低下させ消化活動に無駄なエネルギーを使うのを防ぐ→**痩せ、腹痛、悪心・嘔吐**
- ・発汗で身体を冷却してオーバーヒートを防ぎ、痛覚を低下させ、末梢血管の収縮により傷ついても出血を最小限にとどめる→**多汗、顔面蒼白、四肢冷感など**
他、**手の震え**など

このホルモンがたくさん作られすぎる病気
→**褐色細胞腫(副腎などの腫瘍)**

脳血管障害 まとめ

- ◆脳血管障害は、(1)脳内出血 (2)クモ膜下出血 (3)脳梗塞があり、さらに脳梗塞は、アテローム血栓性脳梗塞(脳血栓)、心原性脳塞栓症(脳塞栓)、ラクナ梗塞の3つに分類される。
- ◆脳血管障害の70%位は高血圧(およびその他の生活習慣病)が関与している。生活習慣としては喫煙が大きい。
- ◆脳血管障害の症状は、片側の顔面、手足の麻痺・しびれ、ろれつが回らない、ふらつき、激しい頭痛などである。これらがあればすぐ病院へ。
- ◆脳梗塞急性期の血栓溶解療法は、発症後4.5時間以内が適応である。症状あれば早く病院へ。